

週間市場レポート (2022年8月8日~8月12日)

1) 先週の市場動向

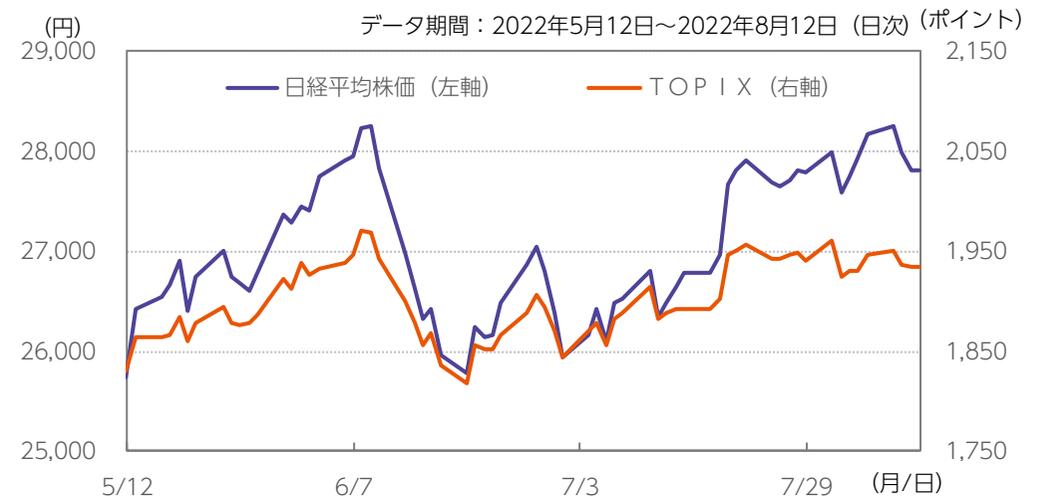
指数名	国	前週末 2022/8/5	先週末 2022/8/12	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		28,175.87	28,546.98	1.32 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,947.17	1,973.18	1.34 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		32,803.47	33,761.05	2.92 ↗
S&P500種指数		4,145.19	4,280.15	3.26 ↗
ナスダック総合指数		12,657.55	13,047.19	3.08 ↗
ユーロ・ストックス50指数		3,725.39	3,776.81	1.38 ↗
S&P/ASX300指数		7,005.76	7,026.45	0.30 ↗
上海総合指数		3,227.03	3,276.89	1.55 ↗
MSCI AC アジア (除く日本)*		829.98	834.56	0.55 ↗
東証REIT指数		2,022.18	2,012.17	▲0.50 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		831.71	868.44	4.42 ↗
ASX300 REIT 指数		1,471.60	1,446.10	▲1.73 ↘
グローバルREIT (除く日本)*		193.69	201.42	3.99 ↗
日本10年国債 (%)		0.168	0.190	0.022 ↗
米国10年国債 (%)		2.827	2.831	0.004 ↗
ドイツ10年国債 (%)		0.955	0.987	0.032 ↗
英国10年国債 (%)		2.049	2.111	0.062 ↗
ドル/円		135.01	133.42	▲1.18 ↘
ユーロ/円		137.51	136.88	▲0.46 ↘
英ポンド/円		163.01	161.83	▲0.72 ↘
豪ドル/円		93.35	95.07	1.84 ↗
フィラデルフィア半導体指数		3,053.39	3,067.84	0.47 ↗
WTI原油先物 (ドル)		89.01	92.09	3.46 ↗
CRB指数		281.04	293.48	4.43 ↗

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で上昇しました。週初は、好業績銘柄を中心に買いが入ったことや、今後、決算発表を控える銘柄への先回り買いが進み、上昇しました。その後は、米国半導体関連銘柄の軟調な決算発表により米国株が下落した流れを受け下落したものの、7月の米消費者物価指数 (CPI) をはじめとした米インフレ指標の鈍化で、米連邦準備制度理事会 (FRB) の急速な利上げにともなう景気減速懸念が後退すると、週末は、グロース (成長) 株をはじめ幅広い銘柄が買われ、大幅に上昇しました。

なお、10日 (水) には第2次岸田改造内閣が発足したものの、株式市場の反応は限定的でした。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇しました。前週末に発表された7月の米雇用統計が市場予想を大幅に上回り、FRBの積極的な利上げが続くとの見方が広がり、上昇しました。なお、週後半に発表された米国の物価関連指標が相次いで市場予想を下回り、インフレ加速への懸念がやや後退すると、小幅に低下する場面もありました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇しました。10日（水）に7月の米CPIの発表を控え、週前半は様子見ムードが広がり、小動きとなりました。米消費者物価指数（CPI）に続き、生産者物価指数（PPI）も市場予想を下回り、インフレ圧力の低下によりFRBが利上げペースを緩めるとの見方から景気減速への懸念が後退すると、景気敏感株やハイテク株など幅広い銘柄が買われ、週末まで3日続伸しました。



4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。前週末に発表された7月の米雇用統計が市場予想を大幅に上回り、FRBが利上げを加速するとの懸念から、週前半は円売り米ドル買いが進んだものの、7月の米CPIに続き、米PPIも市場予想を下回り、インフレ加速への懸念がやや後退すると、週末にかけて日米金利差縮小を意識した円買い米ドル売りが進みました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、米国の物価関連指標の結果を受け、FRBによる積極的な金融引き締めへの警戒感が後退したことから、日米両市場ともに上昇しました。

米労働省が10日（水）に発表した7月のCPIは、前年同月比+8.5%となり、依然高水準となったものの、伸び率は前月（同+9.1%）から縮小しました。インフレ加速への懸念がやや後退したことから、市場では、9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、FRBは2会合連続で実施した0.75%の利上げ幅を0.5%に縮小するとの見方が強まっています。足元のエネルギー価格の下落を受け、9月FOMCの前に発表される8月米CPIで、伸び率がさらに鈍化することとなれば、0.5%の利上げを後押しすることとなりそうです。

国内では、先週後半よりお盆休み入りし、今週は市場参加者が少なく、売買が乏しくなることが予想されるため、小動きとなりそうです。米国では、大手小売り企業の決算発表や、住宅、小売関連の経済指標を確認しながら、上値を追う展開を予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>